

陳 情 文 書 表

(建設局)

受理番号	3939	受理年月日	令和4年12月6日
件名	大手筋通（近鉄桃山御陵前駅前）への横断防止柵設置の再検討		
要旨	<p>大手筋通の京町通から道阿弥町通間は、歩行者が車道をまたいで横断する交通習慣が昔から存在している。それは、この車道を通る車の交通量がかなり少ないこと、対照的に歩行者は多く横断需要が高いからである。長年大手筋通を見てきたが、実際に横断する歩行者の事故はほぼ皆無であり、これはドライバーと横断歩行者の譲合いが現在に至るまでうまく機能している証拠でもある。</p> <p>現在、大手筋通無電柱化事業に伴い、京町通から道阿弥町通間（東行き）には横断防止柵が新たに設置されるとのことだが、横断防止柵にはメリットだけでなく、地元住民、歩行者にとって大きなデメリットも内包されており、設置に関しては慎重になる必要がある。</p> <p>以下、問題点を述べる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 横断防止柵が出来て道が完全に塞がれてしまうと、歩行者が南北の移動をするのに大きく回しなくてはならなくなるため、現状に比べて大きく利便性が下がり、住民の生活の質が低下してしまうことは間違いない。今回の工事は歩行者のためのバリアフリー化、無電柱化がメイン課題とのことだが、横断防止柵によって、歩行者や住民の道の利便性を損ねるのでは、むしろ逆にバリアを増やすことになってしまい、本来の意義が薄れてしまう。 毎年春後半から夏場、秋初旬の暑くなる季節には、熱中症により倒れる方も多く、近鉄桃山御陵前の駅前には救急車が頻繁にとまる状況がある。高齢化や温暖化により、今後その頻度は更に増加するだろう。ところが、横断防止柵が出来てしまうと、このような緊急車両の停車も困難となり、緊急性の高い状況で大きな障害となり得る。 タクシーが駅からの乗降客を得るため長時間にわたって京町通まで列を作る問題も関わっているとのことだが、以前は存在していなかったタクシー乗り場が新たに設けられること、歩道が広がり車道が狭くなることを鑑みると、以前のように1車線を犠牲にした不適切な客待ちをするタクシーはほぼいなくなると思われる。そもそもタクシーの客待ち問題とは別に歩行者環境の改善は担保されるべきであり、前者の問題の対処のために、後者に不便や我慢を強いることは適切でない。については、以下のことを願う。 <ol style="list-style-type: none"> 横断防止柵設置の有効性や必要性には疑問が残り、再検討をすること。 横断防止柵によって横断不可になることを知らない住民が依然として多いため、通り沿い並びに大手筋通南側地域の住民に丁寧なヒアリングを行うこと。 仮に柵が設置される場合であっても、横断需要の高い近鉄桃山御陵前駅の駅前に横断歩道を設置し、部分的に通行を可能とすること。 		
陳情者			
回付委員会	まちづくり委員会		